

## 編輯 後 記

学外はともかくとして、学内は比較的穏やかな1年間であり、当研究所も平静のうちに活動を続けることができたことは悦ばしい。

本年度の研究所としての活動で眼立ったことの一つは、待望久しかった渡辺家文書の複製が愈々開始されたことである。昨年9月の『資料叢書第一集』の刊行に続いて、本年は第二集を上梓すべく準備が進められている。この出版が研究所の歴史に新しい1頁を加えるものになることを、一同念願してやまない。

他方、従来毎年1回行なわれてきた、学内

四研究所の合同研究発表会は、本年度から中止されることになった。研究成果を発表するための伝統的方法が問い直されていることを示すものであろう。我々もこれにかわる新しい方法を考えなければならない。

本年は研究員に新しく有蘭正一郎氏と渡辺正氏を、また事務委託には山本朝子氏の退職にともない山本敦子氏をむかえた。新鋭スタッフを加え、研究所の一層の発展を次年度に期待したい。(S)

愛知大学総合郷土研究所紀要 第23輯

昭和53年3月15日

〔非売品〕

編輯者代表 歌 川 學

印刷所 東邦印刷工業所  
豊橋市小池町115

発行所 愛知大学総合郷土研究所  
豊橋市町畑町